

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	張 育慶
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
女性就業と保育に関する日中比較研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	由井	義通
審査委員	教授	三宅	紹宣
審査委員	教授	下向井	龍彦
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、日本と中国における女性就業と保育の現状を明らかにするとともに、それぞれの国における保育の課題とその背景にあたる女性就業の実態を実証的な研究によって解明しようとしたものである。これまで、日本と中国における保育と女性就業に関する研究をみると、その地域の実態の把握は未だ十分ではなく、現地調査に基づく実証研究の蓄積が求められる。本論文はこのような課題に応えるものであり、保育に関わっている女性たちの実際の体験的な声を、反映させながら、制度的な問題などを指摘し、保育に関する現代的な課題を解明しようとした意欲作である。</p> <p>本論文は、序章、本論としての5章、および終章によって構成される。各章の要旨は以下の通りである。</p> <p>序章では、女性就業と保育に関する日中の研究成果を整理して、文献のレビューの結果、先行研究の大部分は、保育政策の制度的変遷や制度の課題に関する研究であり、また家族や子育てに関する国際比較考察は多く行われているが、中国の女性の就労や子育て事情や保育状況を対象とした比較研究は十分とはいえないことが指摘されている。なかでも日本と中国の女性の就業状況や子育ての環境整備状況から、それぞれの国における保育が抱える問題点を整理した。</p> <p>第1章「女性の就業についての日中比較」は、「女性労働力率の比較」、「女性年齢階級別就業率の比較」、「育児休業状況の比較」の3節で構成され、女性就業に関する制度的比較や育児休業法などの保育に関する法的整備について整理し、日中における女性就業に関する制度の比較を行った。</p> <p>第2章「保育問題についての日中比較」は、「日本における保育現状と待機児童」、「中国における保育現状」、「保育施設と保育サービスの日中比較」、「フランスとドイツにおける保育システム」の4節で構成され、日本の待機児童の問題を中心に日本の保育制度が抱える問題の整理、中国における保育制度における「学前教育」が福祉から教育へと転換していることを指摘したり、日本の保育所において働く母親の育児と仕事の両立を支援する延長保育、休日保育の保育システムと中国における親族の保育への依存性の高さについて指摘した。また、卓越プログラムにおいて現地で聞き取り調査をしたフランスやドイツの多様</p>			

な保育システムを参考にして、日本や中国において求められる保育システムについて検討した。

第3章「日本の地方都市の中心部における保育と女性の就業—東広島市西条地区を事例として」は、東広島市西条地区において保育所に託児する母親たちへのアンケート調査結果を分析したものである。保育施設が預かる時間内に就業を終えたり、週末の勤務が多いサービス業に就業する女性の多くは、保育が困難な状況にしばしば直面することが明らかになった。したがって、働く女性を支援するために、保育所の増設だけではなく、病児保育、夜間保育、休日保育等の多様な保育サービスの充実が不可欠であることが指摘された。

第4章「呉市郊外地域における保育の現状」は、地方都市の郊外地域の事例として呉市昭和地区を研究対象として、女性の就業と保育の問題が検討された。本章の構成は、第一に、昭和地区における人口構成と世帯人口の推移状況を把握し、第二に、昭和地区の保育施設の立地、保育時間、保育内容などの保育サービス状況を整理した。第三に、保育施設の利用状況を明らかにするため、アンケート調査とインタビュー調査を実施し、郊外地域における母親の就業を支援する休日保育サービスの需要を解明した。

第5章「中国都市部における女性の就業と保育の問題—大連市を事例として—」は、中国における都市化の進展を背景として、子育てをしながら就業する女性たちを支援する保育支援サービスにはどのようなものがあり、子育てをしながら就業する女性たちは、どのように保育支援サービスを利用しているのかを解明したものである。中国における女性就業と保育の状況を統計資料から概観したうえで、大連市を事例として幼稚園に託児している母親達を対象としてアンケート調査を実施した。分析の結果として、現在の中国では休日保育や病時保育の制度が未整備であり、サービス業に従事している母親をはじめ、多様な保育の要求を満たすための保育政策が求められていることを指摘した。

以上のように、本論文は、統計資料を用いた分析とアンケート調査による利用実態の解明を組み合わせるマルチメソッドの方法をとることによって、女性就業と保育の実態を明らかにすることを目的とした点でオリジナリティがあり、意欲的な研究であると評価できる。本論文は丹念な地域調査と地理学のおよび保育学的な学際的枠組みにもとづき、制度的比較と、日本と中国における保育と女性就業をめぐる地域的問題についてフィールドワークによって明らかにした労作である。研究成果は3年連続して国際学会の日中韓地理学者会議において英語で発表したり、2013年の国際地理学会において英語によって発表し、参加者から高い関心を呼び、英語論文で発表することを要請されたほどである。

保育に関する現地でのフィールド調査とその分析にかなりの時間を割いたために、女性就業と保育の関係についての理論構築面や中国の多様な地域（例えば農村地域）での保育の研究にやや課題が残るが、貴重な新たな知見を数多く提示しており、現代中国の保育問題研究に資する重要な論文と評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

平成 26年 2月 10日